

研究会当日に回答できなかった質問について、演者より返答いただきました。

一般演題 産後SNSを利用することによるEPDSの推移および患者満足度調査の検討
隅野 恵美(大正病院附属産婦人科クリニック 看護師)

Q1 ラインでの質問で、判断できない場合はどう対応しているか？
(受診してほしいときは受診してもらえるのか？)

A1 緊急性のある事や、悩み相談は直接電話や、来院を促すようにしました。

Q2 オンライン面談という方法もあるが、産後すぐの母親にとっては SNS でのやりとりの方がハードル低く感じるのか。手間や効果の体感から、実対面も含めどのような方向性になると予想されるか。

A2 使い慣れた LINE を利用したこと、自分のタイミングでいつでも利用できたということが患者様の満足度につながったのだと思います。SNS での対応はその気軽さから利用者は増えると思います。これからは病院、クリニックのスタッフのキャパシティや産科、小児科との連携の程度によってつながり方は多様化してくるのではないのでしょうか。オンライン面談もそうですが 24 時間対応したり、産科だけでなく小児科のドクターにも対応していただくなど、状況によって利用者が選択することになってくると思われます。

Q3 妊産褥婦さんは、妊娠～産褥期間中に、何度も EPDS に回答する機会があります。点数が高いと助産師やほか医療職者からの介入があることを妊産褥婦さんも知っており、点数配分も知っておられる方が増えており、わざと低く回答する、すべて0点で回答する方が増えているという背景も目にします。実際対面であれば、EPDS 得点とその対象の様子が確認でき、回答得点は妥当なのか評価できと思うのですが、SNS や LINE であれば回答得点の評価、対象のアセスメントに限界が生じると思うのですが、そのあたりの対応はどのようにされているのでしょうか？

A3 対象の妊婦は、妊娠中、出産、産後も直接関わっている患者様です。また、産後も 2 週間、1 ヶ月健診で直接関わっています。今回は、これらの間で LINE を利用し、いつでも相談できる環境を提供した研究ですので問題は少ないと思います。